京都市眺望景観創生条例第7条第1項の規定に基づく眺望景観保全地域の指定を求める提案に対する本市の考え方

提案の概要

提案書提出日	平成30年11月19日
視対象	無鄰菴庭園から無鄰菴建物（母屋）を眺めた際に、背景に建築物が突出して観望できないように、眺望景観保全地域として指定することにより建築物の高さ（現行15メートル）を引き下げる
視点場	無鄰菴庭園
提案の理由（抜粋）	眺望景観創生条例に基づき、無鄰菴の庭園から無鄰菴の建物を眺望した際に、背景に建物が突出して観望できる事態を避ける範囲で、建築物の高さを規制することを含む眺望景観保全地域の指定を求める。

本市の考え方

<p>1 無鄰菴庭園は東山の諸峰を借景とする東向きの眺望をはじめ、各方向に向けて優れた眺望景観を享受することができる、本市の重要な景観資源であると考えています。</p> <p>2 眺望景観保全地域には、①眺望空間保全区域、②近景デザイン保全区域、③遠景デザイン保全区域の3種類があり、建築等の禁止を行うためには、①眺望空間保全区域に指定する必要があります。御提案いただいた内容は、無鄰菴西側の区域を眺望空間保全区域に指定したうえで、母屋、洋館、樹木のこずえ等の高さを超えて見える建築物等の建築を禁止するよう定めることを求めていると考えられます。</p> <p>3 今回御提案をいただきました、無鄰菴庭園から西向きに見た眺望につきましては、無鄰菴の建物の背景には借景となる山並み等の視対象はないため、眺望空間保全区域の指定の対象とはなりません。</p> <p>4 なお、無鄰菴庭園周辺では、風致地区や近景デザイン保全区域、遠景デザイン保全区域などが指定されており、高さや形態・意匠の制限がされているうえ、個別の建築計画の許可の際には、必要に応じて本市の附属機関である美観風致審議会の審議を経るなど、眺望を保全するための制度が既に存在しています。さらに、無鄰菴においても庭園からの良好な眺めを活かすために、計画的な維持管理を行っています。以上のことから、無鄰菴庭園からの眺めは保全されていると考えています。</p> <p>5 3及び4から、2にあるような建築等を禁止する必要はないと考えております。</p> <p>上記の考え方については令和元年8月19日開催の令和元年度第1回美観風致審議会で説明を行っており、資料等は、一定期間経過後、本市の情報公開コーナーで閲覧することが可能です。</p> <p style="text-align: right;">（担当：風致保全課）</p>